

授 業 概 要 (令和6年度)

授業のタイトル (科目名) レクリエーション活動援助法 A		授業の種類 演 習	授業担当者名 吉田 由香
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間	配当学年・時期 1年 後期	必修
〔授業の目的・ねらい〕 ライフスタイルに合わせた段階の課題をしり、集団レクリエーションの企画・実施を行えるようにする。また、レクリエーションのスキル・技法を学ぶ。 〔授業全体の内容の概要〕 レクリエーション技法を体験し、分析・立案・評価の方法を習得する。 〔授業終了時の達成課題 (達成目標)〕 集団レクの立案・実施を行うことができる。			
各回のテーマ・テキスト			
1コマ目	オリエンテーション		
2コマ目	自己紹介・発表		
3コマ目	プログラムシートの書き方		
4コマ目	ホスピタリティートレーニング		
5コマ目	アイスブレーキング①		
6コマ目	アイスブレーキング②		
7コマ目	プログラム立案①		
8コマ目	プログラム立案②		
9コマ目	ニュースポーツ①		
10コマ目	ニュースポーツ②		
11コマ目	グループ企画		
12コマ目	グループ企画発表①		
13コマ目	グループ発表②		
14コマ目	プログラム実施①		
15コマ目	プログラム実施②		
〔使用テキスト・参考文献〕 レクリエーション支援の基礎		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準などを%で記入) 授業態度、提出物、実施の総合	

授業進行確認表

令和6年4月1日

授業タイトル(科目名) 生活支援技術 A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 吉田由香／山田由記奈
授業の回数 40	時間数(単位数) 80 (5)	配当学年・時期 1 年前期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 ・介護福祉士に必要な生活支援の基礎知識を学ぶ。 ・利用者の生活の豊かさや心身の活性化の援助について学ぶ。 ・利用者が自立した生活を行う上での援助者の役割を理解する。			
〔授業内容の概要〕 ・ひとつひとつの援助の根拠、理論を講義でおさえ、実際の援助を考えながら実施できるよう指導する。 ・Ⅰ－①実習までにベッドメイキング、車イス操作を習得し、見学する機会の多い食事・排泄介助の基礎知識を習得できるよう指導する。			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	オリエンテーション（実習室・更衣室の使い方、服装についてなど）		／
2	【演習】 身体の使い方		／
3	【講義】 生活支援の考え方 ICF		／
4	【講義】 背負支援に共通する技術 チームアプローチ		／
5	【講義】 環境整備の意義・目的 寝具の衛生管理		／
6	【演習】 ベッドメイキング （※実技チェック課題）		／
7	【講義】 移動の意義・目的 介助の基本視点		／
8	【演習】 ボディメカニクス		／
9	【講義】 車いすの使い方 点検・姿勢		／
10	【演習】 車いす介助（スロープ・段）		／
11	【演習】 車いす外出（2グループに分かれて） （※ベッドメイキング練習）		
12			
13	【演習】 高齢者体験		
14			
15	【講義】 歩行介助 歩行のための用具		
16	【演習】 2歩行・3歩行、障害物越え、階段		／
17	【講義】 家事の意義・目的		／
18	【演習】 裁縫（シューズ袋作り）		／
19	【講義】 体位変換 良肢位		／
20	【演習】 上方移動・水平移動・スライディングシート		
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 筆記試験・実技試験・受講姿勢	
中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ			
中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ			

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 生活支援技術 A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 吉田由香／山田由記奈
授業の回数 40	時間数(単位数) 80	配当学年・時期 1 年前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・介護福祉士に必要な生活支援の基礎知識を学ぶ。 ・利用者の生活の豊かさや心身の活性化の援助について学ぶ。 ・利用者が自立した生活を行う上での援助者の役割を理解する。			
[授業内容の概要] ・ひとつひとつの援助の根拠、理論を講義でおさえ、実際の援助を考えながら実施できるよう指導する。 ・Ⅰ－①実習までにベッドメイキング、車イス操作を習得し、見学する機会の多い食事・排泄介助の基礎知識を習得できるよう指導する。			
[授業の進行状況]			実施日
21	【演習】体位変換（仰臥位→側臥位→起き上がり→端座位→立位 （終わった人から更衣練習）		
22			
23	【講義】更衣 意義・目的 衣服の役割・管理		
24	【演習】更衣 片麻痺の方への前開きパジャマの介助（座位）（※実技試験課題）		
25	【演習】更衣 かぶりパジャマの介助		
26	【講義】排泄 意義・目的		
27	【演習】トイレ介助		
28	【演習】紙おむつの交換（※実技試験課題）		
29	【実技チェック】ベッドメイキング （片麻痺の方への前開きパジャマの介助（座位）練習含む）		
30			
31	【講義】移動介助 安楽な姿勢・体位保持・褥瘡		
32	【演習】ポジショニング・エアーマット体験		
33	【講義】食事の意義・目的		
34	【演習】とろみ・ゼリー食の体験、自助具		
35	【講義】食事介助の基本原則 食事の正しい姿勢		
36	【演習】食事介助（座位・臥位）		
37	【講義】バイタルサインについて 【演習】血圧、体温、脈拍、呼吸の測定		
38	【講義】身じたくについて 【演習】整髪・ドライヤー介助		
39	【実技試験】④更衣 片麻痺の方への前開きパジャマの介助（座位） ⑤排泄 紙おむつ交換の介助		
40			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 筆記試験・実技試験・受講姿勢	

授 業 進 行 確 認 表

令和6年4月1日

授業タイトル(科目名) 生活支援技術C		授業の種類 講義・演習	授業担当者 吉田 由香／山田由記奈
授業の回数 26	時間数(単位数) 50(3)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 ・援助の基礎となる「原理」「原則」を確認し、科学的根拠に基づく生活支援技術を理解する ・ICFの理解を深め「できない部分の援助」から「本人の力を引き出し、状態をよりよくする介護が具体的に実践できるようになる 〔授業全体の内容の概要〕 ・1年時に習得した技術の基礎をもとに、色々な障害を併せ持つ対象者に対応する ・人間としての尊厳が守られる。プライバシーに配慮できる。 〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 ・一部介助から全介助へ、基礎技術と複合的ケアを習得する ・福祉用具の正しい知識と活用力を身につける			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	オリエンテーション 各班ストレッチの相談 実力チェック(筆記)		／
2	【講義】家事:買い物・家計の管理 多職種連携		／
3	【講義】前回の実力チェック解説		／
4	【講義】排泄:障害別介助方法 多職種連携		／
5	【講義】災害:災害時における介護福祉士の役割		／
6	【講義】 災害時における生活支援の実際		／
7	臥床状態での前開き上下着脱とシーツ交換の複合ケア ①		／
8			／
9	オムツ交換 + ズボンの交換 ②		／
10			／
11	【講義】食事:誤嚥、口腔マッサージ、他職種連携		／
12	【講義・演習】 食事コラボの説明 グループワーク		／
13	【講義・演習】食事のアプローチ① 利き手交換、高血圧食		／
14	ビデオ撮影後、検証・ディスカッション		／
15	【講義・演習】食事のアプローチ② 糖尿病の合併症、網膜症・神経障害		／
16	ビデオ撮影後、検証・ディスカッション		／
17	防災センター見学		／
18			／
19	【講義・演習】食事のアプローチ③ 体動困難、嚥下困難、ミキサー食		／
20	ビデオ撮影後、検証・ディスカッション		／
21	【講義】排泄:尿・便失禁の対応 障害別介助方法 多職種連携		／
22	【演習】座薬介助(ケイコさん使用)		／
23	【講義】睡眠:睡眠障害、眠剤、薬の服薬について		／
24	【講義】福祉用具		／
25	実技試験 ① 臥床状態でのシーツ交換 ②オムツ交換 + ズボンの交換		／
26			／
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規 : 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 筆記試験・実技試験・課題提出	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
生活支援技術・調理		実習	本田 真未
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
8回	15時間(1単位)	2年前期	必修

【授業の目的・ねらい】
 高齢者や障がい者の食生活や調理上の知識と技術を習得する。
 栄養バランスと健康を考慮し、生活の楽しみとなる食事をつくることができる力を養う。

【授業全体の内容の概要】
 調理を行う際の衛生管理や調理技術などの基本事項をふまえ、高齢者のための食事づくりのポイントを学ぶ。
 摂食嚥下機能食品や栄養補助食品を試食することで、食感や食べやすさについて学ぶ。
 調理実習を通して治療食のポイントを振り返り、試食することで体感する。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】
 将来生活支援者として食に携わるという自覚を持ち、今後も技術向上に努める。
 他職種連携の視点を持つ。
 実習を通して身に着けた知識や技術を自身の健康管理に役立てる。

【授業の進行状況】

	実施日
1 調理実習の流れとルールの説明、調理の基本について講義	5/16
2 摂食嚥下について説明、とりまけの実践、試食(摂食嚥下機能食品・栄養補助食品など)	5/16
3 塩分制限食	5/23
4 塩分制限食	5/23
5 糖尿病食	5/30
6 糖尿病食	5/30
7 嚥下調整食	6/6
8 嚥下調整食	6/6

【使用テキスト・参考文献】 はつらつ、サンプルの資料、冊子等	【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) S 実習の準備と授業態度 50% L レポートの内容 50%
-----------------------------------	--

令和6年 発達と老化の理解 A

1年前期 必修 担当：川崎佑理

【授業目的・ねらい】

人間の成長と発達を理解し、老年期を含むライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題について学び、特に老化が生活に及ぼす影響を理解する。

【授業全体の内容の概要】

- ・人間の成長と発達の基礎的理解
- ・老年期の発達と成熟

【授業終了時の達成目標】

- ・人間の生涯に及ぶ成長発達を成長・発達の原則や影響する要因などから理解する。
- ・各発達理論による発達段階と発達課題を理解する。
- ・老年期の特徴と発達課題を理解する。
- ・現在の高齢者の多様性を理解し、老年期をめぐる今日的課題を理解する。

【講義日程】

回	内容	実施日	備考
1	人間の成長・発達の考え方		演習1-1、1-2
2	成長・発達の原則・法則		
3	成長・発達に影響する要因		
4	発達理論、発達段階と発達課題		演習2-1、2-2
5	身体的機能の成長と発達		
6	心理的機能の成長と発達		
7	社会的機能の成長と発達(1)		
8	社会的機能の成長と発達(2)		演習2-3
9	老年期の定義、老化の特徴		
10	老年期の発達課題(1)		演習3-2
11	老年期の発達課題(2)		演習3-1
12	老年期をめぐる課題		
13	老化にともなう身体的な変化と生活への影響(1)		
14	老化にともなう身体的な変化と生活への影響(2)		演習4-1
15	まとめ		ミニテスト

【テキスト】

最新 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 第2版（中央法規）

【成績評価】

平常点（20%）、試験（ミニテスト、最終試験）80%

授業進行確認表

授業タイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
こころからだのしくみ E		講義・実習	取越 崇
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
8	15時間(1単位)	2年 前期	必修
【授業の目的・ねらい】			
- 言語障害全般の基礎の理解 - 摂食・嚥下障害の基礎及び適した食事形態・介助法の理解			
【授業全体の内容の概要】			
パワーポイント、動画の使用、グループワークを行う講義			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】			
- 疾患に応じたコミュニケーション方法の理解 - 嚥下障害に応じて食事の環境設定を考えられる			
【授業の進行状況】			
			実施日
1	言語障害の種類、脳のしくみ、難聴、構音障害について		5/2
2	高次脳機能障害の病態、コミュニケーション方法、介助方法について		5/2
3	コミュニケーション展開の方法		5/2
4	認知症の病態、コミュニケーションについて		5/2
5	失語症の病態、コミュニケーションについて		5/22
6			5/22
7	摂食嚥下障害について		5/22
8	口腔ケア・食事介助について		5/22
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)	
絵で分かる言語障害 脳卒中後の摂食・嚥下障害		試験	